

新門司老人福祉センター 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成30年10月15日(月) 10:20~12:30
- 2 場所 北九州市役所81会議室
- 3 出席者 (検討会構成員)
大島構成員 太田構成員 小鉢構成員 樋上構成員 山中構成員
(事務局)
長寿社会対策課長、生涯現役推進係長、担当職員

4 会議内容

○座長選出(事務局の提案、検討会の合意により)

○議事次第、選定基準、採点上の注意事項等について事務局より説明

○プレゼン(株式会社トキワビル商会より提案内容を説明)

○質疑応答(株式会社トキワビル商会との質疑応答)

(構成員) 先ほどの話の中で、「風呂の改善」これはとても良い事である。ぜひ実行していただきたい。加えて、市外からも集客を、という話だが、基本の対象者は北九州市内に居住する60歳以上となっている。それをあえて北九州以外からとはどういうことか。

(提案団体) 当然ながら、高齢者のための施設なので、広域の利用者の方の流入も図っていききたいという意味合いである。あえて市外からという意味ではない。

(構成員) 北九州市に居住の60歳以上の年長者を対象として、各種の相談に応ずることや、健康の増進、教養の向上、レクリエーションとある中で、60歳以上となっているにもかかわらず、まず市外から、加えて60歳未満でも良い、というのは施設にマッチしないと思われる。

(提案団体) そのために、市内の60歳以上の方の料金を安くしている。その他の部分

に関しては、当然ながら市内、60歳未満の方という部分の対象の方は200円である。利用者が、減ってきているのが現状。広報活動が積極的にできていないと考える。

(構成員) あくまでも、基本は60歳以上の施設。それを独自に、60歳未満と変更できるのか。

(提案団体) あくまでも、提案という形で考えている。当然ながら実行の際は、担当課と協議する必要があると思っている。

(構成員) 資料をよく検討しており、シナリオもわかりやすい。他の地域で実績もあるが、60歳が、100円に入れることについて不安定な部分も感じる。親と一緒に、高齢者と一緒に来館したいとなった時に料金は割り増しになってもいいというのは良いアイデアだと思う。立地的に今後、利用者が伸びるのかと不安要素はある。

(構成員) 提案内容が高齢者のみの利用に、偏りすぎている。地域の子どもや子育ての親も一緒になってできることが提案に入っていれば、高齢者が自分を発揮できる場に繋がると感じた。料金を100円にすることで、利用者は増えても、埋め合わせできるか疑問。

(提案団体) 全年齢対象は難しい。40歳、50歳に施設を知ってもらうことで、将来的に利用者増、施設の活性化を図りたい。また、経費を下げる必要がある。29年度の業務委託料が約1330万円計上されているが、850万円削減可能。約480万円の業務委託費でまかなえると考える。一方で風呂のメンテナンスには、経費増になることもあるが、十分な削減は可能と考える。

(構成員) 浴場や休憩室における一部の人たちによる独占的な施設利用とあるが、これは実際、北九州の門司の実情を把握してのものか。

(提案団体) 高齢者施設で一番問題となる、一部利用者が場所取り、縄張りをしている施設がある。門司の方でそれが具体的にあるかは、まだわからないが予期したことを踏まえる必要があると考えた。

(構成員) 2点確認がある。門司にもスーパー銭湯があるが、そことの区別はどうか。また、市内の高齢者のためにどういった還元を考えているか。本社は飯塚市

にあるので、北九州市のために何をしてもらえるか確認したい。

(提案団体) スーパー銭湯との住み分けでは、風呂の設備だけでは劣っていると思う。それを補うために、生きがいつくり、自主事業、生涯学習、カラオケ大会等を行うことで差別化を図る。市民のためでは、バスや、LED照明、お風呂の改善を行う。職員の接遇を強化することでコミュニケーションを図ってきたい。

(構成員) 北九州市民の就職先になる、ということも考えているか。

(提案団体) 本施設は北九州の新門司にあるので、地元採用、現状の職員の雇用の継続を考えている。給与体系や労働環境を伝えて、マッチングしたときに雇用を行っていき、不足が出た場合は人材の募集を行う。

○プレゼン (ばいおにあグループ共同事業体より提案内容を説明)

○質疑応答 (ばいおにあグループ共同事業体との質疑応答)

(構成員) イベントの目玉として音楽や、マグロの解体ショーはわかったが、施設の目的が健康増進、教養の向上、であり日常的なプログラムも重要である。先ほど今あるもので良いものは残し、悪いものは直していくとのことだったが、日常的なプログラムと、良い悪いの判断基準を教えてほしい。

(提案団体) 今あるプログラムの中でフラダンスなど、健康増進になるものは、そのまま残したい。良い悪いというのは地元や利用者と話し合っ、決めていくが、最初は今のプログラムを維持する予定。

(構成員) 子ども食堂のことを触れていたが、目的外使用の予定か。

(提案団体) それも地元からの要望があれば積極的に取り入れる予定で現時点ではまだ考えていない。地元が必要としていれば、目的外使用であっても、区などとも協議をして取り入れたい。

(構成員) 施設を中心に、子ども、障害者、地域住民、企業がより良い環境を作り居場所作りをするのはとても良いことだと思う。高齢者に特化せずに、様々な

地域の方が気楽に行ける場所というのは良い。

(構成員) 人員配置計画表だが、センター長は社長か。常駐・常勤の職だが大丈夫か。

(提案団体) 会社自体が近いため、常駐・常勤が可能。

(構成員) 責任者という意味では、高齢の方もおり、命に関わることもある施設なので、社長がセンター長では常駐するのは難しいように思う。

(提案団体) 一生懸命やっていて、人の為になることを目標に、グループホームの中で、20数人と一緒に社長である私自身が一緒に暮らしている。社長という責任があるので、やっている。2年間やってきてみんなが楽しくやっている。

(構成員) イベント関係に対しては熱意を感じるが、経営となると、財務状況を見ても不安が残る。

(構成員) 前向きな運営方針は感じたが、ここはあくまで老人福祉施設であり、センター長が常勤でなければいけないと思う。地元の方、利用者の方から見た印象が良くない。

(構成員) 地元の自治会長、連合会と話し合い、送迎バスの運行方法を考えていきま
すとのことだが。

(提案団体) 今回、自治連合会長からは、今、門司駅の方までバス送迎を行っているが、無駄ではないかと言われている。送迎の範囲を狭め、狭めた分、地元に着して運行できれば利用者が増えるとの意見。今、送迎の範囲が広いことは聞いている。狭めてでも密着したものにできれば、と思っている。

(構成員) 送迎の範囲が広く、人は少ないだろうけれども、広いところから1人2人がバスに乗って利用している。その人たちの足が無くなるような狭い範囲になれば、問題だと思う。十二分に検討して決めてほしい。

(提案団体) 自治会長も含め、話し合った上で、本当に必要な範囲で決める必要があると思っている。過去、単独で決めたことでクレームがあったことも聞いている。地域と話し合っ
て決めたい。

(構成員) 利用者が新門司老人福祉センターに来て感じることは、職員の第一印象。窓口職員や閉館時間までの対応が見えてこない。どの施設でも第一印象で、人気が出る、出ないが変わる。職員の研修を十二分にされるように。

(構成員) 新門司老人福祉センターの設置目的として、高齢者が健康で明るい生活を営むため、地域の高齢者に対して各種の相談に応ずること、健康の増進、教養の向上及びレクレーションのための場を総合的に供与すること、とあるが、プレゼンの中では楽しそうだという印象はあったが、いざそれを高齢者の方へ落とし込んだ時に提案内容では厳しいのではないかという思いがある。目的に沿ったプレゼンになっていなかった面があるので、その点を補充していただきたい。

また、共同事業体で管理運営を行う上での責任分担について、ともに代表者が同じなので、相互で負いますという文章の意味が分からなかったのも、どういう趣旨なのか確認したい。

(提案団体) 健康の増進あるいは地域の関係について、もともと、この施設は新門司ごみ工場の代替施設として、地元の反対がある中、合意で作られた。そういう意味では、まずは地元の方々が出来れば老若男女、私も地元で市議会議員をやっていたので、いろんな要望を受け、間に入ってきた。1つは、吉志学舎。井筒屋の社長、会長をされた方の家を九州作家協会が委託を受けて、健康増進のために医者、ケアマネ、看護師を入れて相談会をやっている。地元の方が何をしたいのか聞きながら、音楽や生きがい対策を実施したい。まずは地元、それから門司区、小倉南区を含めて、市の施設から人が集まるような生きがいを見出せるよう、積極的に取り組みたい。

(構成員) 危機管理について、事故発生は職員等に説明します、とあるが高齢者が集まる施設なので、訓練まで実施して、安全面に取り組んで欲しい。

(提案団体) 提案書に書いていないが、実地で訓練を実施している。なお、責任は相互で負うというのは施設それぞれ代表が同じため。

○プレゼン (特定非営利活動法人ワーカーズコープより提案内容を説明)

○質疑応答 (特定非営利活動法人ワーカーズコープとの質疑応答)

- (構成員) 出資について、市民からの出資も募るのか。
- (提案団体) 組合に加入する人から出資金を募る。そのため市民に出資をしてもらうわけではない。新門司老人福祉センターの運営者として、一緒に働く者として雇用する場合において出資金を集める。職員のみが出資する。
- (構成員) なんでも相談という提案があった。職員が相談を受ける。受けるからには何らかの資格が必要と考えるがどうか。相談を受けて話を聞いた、その後の流れはどのようになるか。
- (提案団体) 新門司老人福祉センターでの相談に関して窓口機能を重視していく。職員だけでは対応できない重いケースについては、地域のさまざまな資源、行政機関等と連携して情報共有し合って、どこに相談を持っていくか判断する。
- (構成員) 地域向けニュースの発行の中で、ボランティアを募って配布するとあるが、ボランティアは何名ほど募集するのか、また配布部数についてはどの程度か。
- (提案団体) 新門司老人福祉センターでの具体的な数字はわからないが、他の同種の施設の数字を見ると、100人程度のボランティアがそれぞれの組織にいる。その中で、10名～20名くらいの方が配布に協力してくれている。100部から、10部まで配れる範囲でお願いする。
- (構成員) 新門司老人福祉センター運営委員会には利用者也ボランティアも入るが、利用者は60歳以上に限定されるが、ボランティアについて、制限はあるか。
- (提案団体) ボランティアは60歳以上に限定せず、高齢者福祉に興味がある学生や、地域の子どもたちも将来、地域を担っていく若い人材として地域の高齢者福祉の知識を持ってもらいたいと思うので、広く募集する予定。
- (構成員) 新門司老人福祉センターは60歳以上の高齢者に限定されており、60歳以下の方は利用できない。それでも若い人をボランティアとして受けられるのか。
- (提案団体) 60歳以上しか施設自体に入れないという趣旨ではないと思うが、施設に入ることが出来ないということであれば、他の場所で会議行うことや、施

設の中だけの活動にとどまらず、広く近くの公園や集会所に活動の拠点を広げて、そこで出来ることを、様々な市民の方々と一緒にやっていきたいと考える。

(構成員) 良い考えだが、外部での会議のときは新門司老人福祉センターの職員を出すと考えてよいか。

(提案団体) 基本的にはワーカーズコープの本部職員もいるので、センターの職員が勤務中に施設外の業務が認められるかは今後協議が必要。

(構成員) 専門的な立場からお尋ねする。事業の収支計画書の中に一般管理費が550万円あるが、法人への支払いであった。これについてお聞きしたい。

(提案団体) あくまで概算の数字ではあるが、同種の施設で本部が地域づくりの活動を行うにあたり、地域の方との会議費用などを見越して法人管理費を計上している。上限で10%を設定している。必ず550万円が毎年かかるということではなく、現場の状況と比較しながら調整していく。

(構成員) 予定収入が多く組まれているように思うが、大丈夫か。

(提案団体) 収入に関しては内訳もあり、利用人数50,500人を前提として、年間900万円ほどの収入が見込まれると考えている。

(構成員) 支えあいの施設として活用していきたい、誘い合い助け合いでバスに頼らなくても施設に行けるような工夫もしたい、暮らしのサポーター養成講座を実施し、地域の人で運営していく力を高めていくというところがとても良いと思う。

(構成員) 北九州地域でのネットワークを持っていないように思うが、どのように構築していくのか、どういったところから切り込んでいくのか、お聞かせ願いたい。

(提案団体) 障害者福祉の事業や、介護福祉の事業を通し、地域や行政とも、連携を深めたい。他の地区で行っている、地域おこしサミットや、地域懇談会を開催したい。ネットワークを構築して改めて活動したい。

○構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受け、提案についての評価を行い、得点を記入し発表。

○構成員による意見交換

(構成員) トキワビルは他でも実績がある、安全管理等のシステムも実績を踏まえて出来上がっている部分がある。自分の専門分野である生涯学習の観点からすると、もう少し教養や健康の増進について提案してもらいたかったが、他と比べるとポイントは高いと思う。

ぱいおにあとワーカーズコープは、それぞれ未知数のところがある。ネットワークを持っていない、入浴事業に関する記載がほとんどない、衛生管理や管理運営についても、視点が抜けていた。

(構成員) トキワビルは提案が23ページにわたり、また細部にわたって書いてあった。「共に参加する」から「自ら参加する」へ導きたいや、苦情及び事故対応に関しても細かく対策がとられており、良かった。

ぱいおにあは地元との密接なつながりを持って、憩いの場、居場所にしたいという提案が良かった。

ワーカーズコープはみんなで支えあっていこうという新しい発想が入っており、地域に根差して、一緒になってやれる、自分たちの地域は自分たちでいうところが良かった。

(構成員) あくまで北九州市の指定管理者の仕事であり、実績や、安全面、衛生管理面を重視すると、会社の経済成長も良く、トキワビルに高得点をつけた。

ぱいおにあはイベント面は良かったが、運営管理となると、未知数であり不安要素も多い。やる気は良いが心配な部分もある。

ワーカーズコープは組織が大きすぎて、北九州で、みんなで助け合っという理念を持ってやるとのことだが、現場で働く人が馴染めるのかという問題がある。新規参入するにはリサーチが足りないと思う。組織が大きすぎて細かいところに目が行き届かないのではと思う。

(構成員) 北九州の施設なので第一優先は北九州に、と考えた。プレゼンの時に、人によって流暢にしゃべる人、考えながらしゃべる人、それぞれいたが、重要視はしていない。膨大な資料を読み、自分なりに判断した結果である。

(構成員) トキワビルはしっかりした企画書であり、流暢なプレゼンの仕方でも聞きやすさがあつたが、福祉的視点という意味では、冷たい印象を受けた。ただ、設置目的や風呂を経営するという意識がはっきりしており、それに添った企画提案が良かった。

ワーカーズコープは東京に本社があり、北九州地域という視点から見るとトキワビルの方が上と感じた。トキワビルも飯塚市ではあるが同じ県内で、北九州市のことを考えてくれるという印象を受けた。ワーカーズコープが悪いというわけではないが、リサーチが足りないと感じた。

ぱいおにあについては熱意は買うが、具体性がなく勢いで、良いと思ったからやる、という雰囲気が感じられた。高齢者のための相談、高齢者のための健康維持というところでは経験も無いと思われ、本当に心配だと思った。

○各構成員に意見の修正の機会を与えた後、採点結果を取りまとめ、検討会を終了した。